

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和4年7月 22日(金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 :13名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 4名
配布資料	① 会次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和3年度版 自己評価報告書 ⑤ 令和4年度第1回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 開会宣言 2. 学園側関係者挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 校長挨拶 3. 委員紹介 【井坂副校長】 各委員の紹介 4. 議長の選出 【井坂副校長】 会則に則り、渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)を議長に選出 【渡邊委員長】 議長挨拶 5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員15名、出席13名、委任状0名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2021(令和3)年度 第2回学校関係者評価委員会議事録確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録(第一号議案および第四号議案)の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2021(令和3)年度事業報告 【渡邊委員長】 事務局へ 2021 年度の事業報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 — 2021年度事業報告 — 1. はじめに～専門学校を取り巻く状況・社会情勢～ 「高校教育の改革」 「大学入学者選抜の改革(大学入学共通テストの導入)」 「大学教育の改革」 「専門職大学制度」 「高等教育の無償化」 「リカレント教育の充実(リスキリング)」

2. 基本方針と2021年度結果報告

「エントランス・ディベロップメント」

— 入学者目標352名 —

⇒ 入学者数 :266名(前年度 21 名減、前年度比 92.6%)
在籍者数 :582名(前年度 48 名増、前年度比 92.3%)

<目標未達原因>

- ・COVID-19 の拡大による留学生の減少
- ・地方からの流入減少
- ・大学の定員抑制の緩和

「エデュケーション・ディベロップメント」

— 目標退学率5%以内 —

⇒ 4.87%(BE 科を除く 5/1 在籍 615 名に対し 退学 30 名)

— 授業の問題発見、改善手法の開発 —

PDCA サイクル(教学マネジメントの確立)、中でも CA の部分に注力
SP 分析の導入

— 学修成果の見える化 —

e ポートフォリオの作成・公開

「キャリア・ディベロップメント」

— ディプロマポリシーの達成、8月までに80%内定獲得 —

⇒ 8月までに74%、年度末には100%内定獲得

「中期計画テーマ2(DX 社会を推進する次世代技術教育事業の構築)」

— DX をワクワクさせる学校づくり(学びの「拡充」「未来化」「深堀」「発信」プロジェクト)

<学び拡充プロジェクト「新科 2 科の設立 (R04 年度開講)」>

⇒ IoT+AI 科、データサイエンス+AI 科(企業連携で開発し、社会ニーズに即した実践的な学科)
ディプロマポリシー、カリキュラム、コマシラバス、授業シート、カルテの作成、新科教員採用

<学び満喫 未来化プロジェクト>

⇒ 既存学科のイノベーション

<学び満喫 深堀プロジェクト>

⇒ 企業連携等探求型教育事業の開発
分野横断型技術者教育事業の開発

<学び満喫 発信プロジェクト>

⇒ 企業連携学科横断による研究機関「TTC ラボ」の開設
企業連携学科横断による学修環境・ラーニングコモンズ「TTC プラザ」の開設

— 専門人材未来会議の継続開催 —

第4回 : 「BI ツールの現在と未来～Tableau を操ろう」(株)セラク DX 本部 若松氏

第5回 : 「通信技術の現在と未来」(株)ミライト みらい開発本部 高堂氏 (2022.1/24)

「自動運転技術の現在と未来」(株)ティアフォー事業本部 橋本氏

⇒ (株)ティアフォーは、すでに AI 教習所を運営⇒コヤマドライビングスクールへ提案

「リアルジョブプロジェクトに関する報告」

— 各科の取り組み —

建築監督科:①10 階共用スペースのリノベーション

②教材模型製作(木造、2×4、鉄骨、RC ラーメン)

③オープンキャンパス用教室のリノベーション

建築科 :①8階共用スペースのリノベーション

②校内共用部へのリノベーション提案

③科内教場・授業改善提案

④調査研究

インテリア科:学生寮のモデルルームのリノベーション

情報処理科:IoT&AI システムの開発

ゲームプログラミング科:AR スマートフォンゲーム&アプリ開発

Web動画クリエイター科:①吉祥寺ハロウィンフェスタ オンラインイベント企画・実行
 ②中野区うさごはんカレンダー壁紙制作
 ③ RJP ペーパー制作
 ④企業 HP 制作等

バイオテクノロジー科:①植物関係
 ②標本・模型
 ③環境整備
 ④健康
 ⑤広報を 14 班に分かれて実施

環境テクノロジー科:①井戸水鉄分除去
 ②土壌生物分析
 ③水族館の水質管理
 ④メンテ不要水槽

「高等教育機関の負担軽減策に関する報告」

— 高等教育の無償化（2021 年度）—

第Ⅰ区分(満額)34 名

第Ⅱ区分(満額の 2/3)15 名

第Ⅲ区分(満額の 1/3)10 名

計 59 名(9.4%)が受給 2020 年度、計 44 名より大幅増

「専門人材育成訓練等に関する報告」

— リカレント教育の充実 —

⇒人生 100 年時代の学び直し

教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の継続

専門人材育成訓練制度の受入れの継続

文部科学省へ「リカレント教育の取り組み動画」を提供

「その他、学修成果等に関する報告」

— 建築科(2020 年度) —

⇒大和ハウス 1 期生(2019 卒業):2 級建築士学科試験合格率 71.4%(5/7 名)

大和ハウス 2 期生(2020 卒業):2 級建築士学科試験合格率 75.0%(6/8 名)

— インテリア科(2021 年度) —

⇒IC 学科試験合格者数、2 年生 6 名/31 名(19.3%)、1 年生 3 名/30 名(10.0%)

IC 最終合格者数、2 年生 3 名/31 名(9.6%)、1 年生 1 名/30 名(3.3%)

JAPANTECH2021 インテリアデザインコンペ「ファブリクスで造る無限の可能性」

JAPANTECH2020 インテリアデザインコンペ「空間を装うインテリアファブリクス」

— Web 動画クリエイター科(2021・2020 年度) —

⇒Webデザイナー検定合格率 95%

CG-ARTS 賞(協会団体賞)受賞 (2019 年度文部科学大臣賞受賞)

南九州市「知覧茶」ポスターデザインコンテストの大賞・優秀賞(次点)を W 受賞

ジーンズメイト T シャツコンテスト 4 学生の作品が最終選考 56 作品の中に残る(応募作品数 1170 点)

— 文部科学省および政府広報関連等 —

⇒「いまスタ！社会人の学び応援プロジェクト」(文科省 YouTube チャンネル)

「自分らしく社会で活躍するために～学び直しを充実させる手厚い支援～」

「宇賀なつみのそこ教えて！」(政府広報番組 BS 朝日 1/8 放映)

「夢に向かって専門学校で学ぶ学生×文科省職員意見交換会、学生の質問に文部科学省職員が答える！」(文科省 YouTube チャンネル)

「#知る専 専門学校の魅力を知る、文科省特設サイトに動画提供」

「6/29 文科省「専修学校の質の保証・向上に関する調査研究会議(第 22 回)」

「専門学校と高等学校の有機的連携プログラム開発・実証事業」受託決定

「10/4 文科省 総合教育政策局 専修学校教育振興室、当校視察」

「11/22「#知る専」リレーコラムに「学校と社会の一層の隔たりを憂う」が掲載」

「1/18 全国専門学校教育研究協議会「職業教育マネジメントセミナー」登壇」

「4/21 文科省 総合教育政策局 専修学校教育振興室、当校視察」

(3)第三号議案:2022(令和4)年度事業計画

【渡邊委員長】

事務局へ2022年度の事業計画の報告を指示

【井坂副校長】

報告者白井校長を指名

【白井校長】

— 2022(令和4)年度事業計画 —

「エントランス・ディベロップメント」

— 入学者337名獲得 —

⇒ 見学出願率向上(OCの見直し・質向上)

発信強化(RJP・教学マネジメント、SEO対策等広報連携)

高専接続・高校連携強化(文科委託事業を含む)

留学生オンラインコミュニティ運営

「エデュケーション・ディベロップメント」

— 退学率5%以内抑制 —

学修意欲の向上

学修目標(DP、わかる目標・できる目標)の周知

問題の早期発見・共有・対応

指導記録・科内MTG・週例経営会議

— Plan:各教科カリキュラムの未来化構想立案(中期計画テーマ2と連動) —

⇒ 既存学科カリキュラム更新基本構想の立案

— Check:チェックバック手法(資格取得も含む)の開発 —

⇒ 履修判定試験結果分析からカリキュラムの問題点の発見

S-P表分析の実装(実証実験含む)

ルーブリック評価表の再実装(実証実験含む)

— Action:フォローアップ体制の再構築 —

⇒ スタジオアワー等補講時間の確保

「中期計画テーマ2推進～DX社会をワクワクさせる学校づくり～」

<DX社会を推進する次世代技術者教育事業の構築>

— 学び満喫 拡充プロジェクト —

⇒ IT系新学科2科の設置

— 学び満喫 未来化プロジェクト —

⇒ 既存学科のイノベーション

— 学び満喫 深堀プロジェクト —

⇒ 企業連携等探求型教育事業の新規開発

分野横断型技術者教育事業の新規開発

— 学び満喫 発信プロジェクト —

⇒ 専門人材未来会議の継続開催

企業連携学科横断による研究機関「TTCラボ」の開設

企業連携学科横断による学修環境・ラーニングコモンズ「TTCプラザ」の開設

(4)第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

【渡邊委員長】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【井坂副校長】

「資料も多く、いきなり学校全体を把握することは難しいと思うが、校長の報告を聞いた感想で結構なので、ご意見賜りたい。」

以下、各委員の意見及び校長の答弁の概要

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「『IT 分野を軸に、その技術を各分野に浸透させ DX 社会を促進したい。』というのは、具体的にどのように各分野に浸透させる想定か。」

【白井校長】

「はっきりとした結論は出ていないが、各科のカリキュラムの中で落とす可能性もあるし、科と科を組み合わせで作っていく可能性もある。例えば、AI を建築現場で動かしたい時に AI と建築を共に理解していると両者のかけ渡しができるのではないかと。」

【澤坂委員】

「(ご自身の経験をもとに)一つの分野に精通するには十数年といった時間がかかり、専門学校での2年間では複数の分野をこなすのは時間が足りない。そこで学生時代から科を超えた交流会を設けてはどうか。10年後も交流を続けていれば、お互いの分野の情報も入り続けレベルの高いものを生み出せるのではないか。」

【白井校長】

「交流会の話はわかりました。複数の専門性を持つという話は、20代で行う必要はないのではと考えている。学び足しというのは、30代、40代で起こるのではないか。社会に出て実務につき、必要性を感じたときに学び足す場所があることが重要ではないかと考えている。データサイエンスの夜間課程を開講するなど30代、40代でも学び直せるようなところも視野にいれていきたい。」

【藤沼委員(NEC ソリューションイノベーター株式会社;バイオ科卒業生)】

「学生募集に関することで、現在から来年度に向けて募集人数を5%伸ばすという目標を掲げていると思うが、これは単純に新しい学科を作ったから伸びるという認識なのか、それとも別の施策を行って伸ばしていくという考えなのか、お聞かせいただきたい。」

【白井校長】

「実際に苦戦したこともあり、新学科を作るだけではうまくいかないと思っている。専門人材育成訓練などの国の制度を加えた時に強みができると考えているため、長期的な目線でいる。また、四谷学院の55段階や公文式のように、特徴的な当校の履修システムを”小山式”というので動画配信する準備も進んでいる。高専接続にも注力し、現在では、練馬工業と堀越学園との提携を終えている。在籍者の95%が大手ゼネコンに入社している建築監督科に注目していただいて、工業高校→当校建築監督科→大手ゼネコンといった一気通貫のキャリアパスで地方自治体の枠組みも使いつつ高校・専門学校・企業・官公庁の4つで連携するプログラムもでてきている。このように、やれる施策は可能な限りやっていく。」

【長田委員(ゲームプログラミング科保護者)】

「保護者からの意見だが、高校までは家でいつ勉強しているのか、という感じだった子供がこちらに入ってから、学校で勉強してきているから家ではなくていいと。実際にテストでは結果が出ており、一つも落とすことなくここまでこれたのは、学校教育のおかげだと。学校で勉強するというのは今後も続けて頂きたい。」

【白井校長】

「元々学修習慣がない方も入学しますが、授業シートやカルテを使い徐々に学修習慣が身につく。学生同士で教え合える雰囲気もつくろうとしている。また、入学前のオープンキャンパスの際、学校で復習するというのを各科で伝えるようにしている。」

【多田隈委員(バイオテクノロジー科保護者)】

「昼食の場所だが、子供目線で見るとまだまだ足りていない。WI-FI 環境も改善されていないと感じる。また、退学率に関して、全体の数値はわかったが学科によって偏りがあったりはしないか。子供がまだ内定をとれていないが大丈夫か、できることなら OB との交流会等で企業と繋がりができれば親として安心する。履修報告で、就職活動での欠席にもかかわらず、欠席であると出席率に反映されているのではないか、卒業時に問題にならないか。」

【白井校長】

「昼食のスペースに関しては、春休み中にパーテーションを立てるなどして席の確保に努めている。これ以上席数を増やすと密になる恐れがある。WI-FI に関しては、今年に入り新たに拡充したが、落ちてしまうことがあるため原因究明に努めたい。退学率は科によって多少ばらつきはあるが、特定の学科で多いという認識はない。就職は年末までには100%となるように努める。出席率は、就活を理由に授業を休む学生が増えた過去があり、出席簿上は欠席扱いとするが、卒業時の精励賞、皆勤賞ではその部分は除いている。」

【中山委員(有限会社イプシロン、東京商工会議所)】

「以前から、多くの学科があるので学科を横断する形でなにか学ぶことができればいいなと思っていたこともあり、『IT 分野を軸に、その技術を各分野に浸透させ DX 社会を促進したい。』という部分は非常に良いと感じた。リカレント教育もおもしろいと感じており、社会人経験者と未経験の学生が一緒に学んでいくということは、学びの中で新しい価値を見出せ魅力的な要素になっていくと思う。」

【白井校長】

「ありがとうございました。」

【杉山委員(桔梗 ICT パートナース株式会社 特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会)】

「世の中の市場に合わせ、RJPにDAO(分散型自立組織)的なメタバースの空間を作ってはどうか。バーチャル上で作成することが仕事に紐ついてくるのかと思う。RJP が頭打ちじゃないかという意見もあるが新たにそのジャンルで勝負してみたら面白いんじゃないか。是非リアルジョブでバーチャルジョブをやっていたきたい。」

【白井校長】

「Web 動画クリエイター科で、バーチャル上での作品展を作ったりもしている。メタバースや仮想空間というのは一つのキーワードになっていると思う。“バーチャルジョブプロジェクト”ということですね。ご提案ありがとうございます。」

【島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ、法政大学大学院デザイン工学研究科、インテリア科講師)】

「学生の増加に伴い、学生一人当たりに対する声掛けやアドバイスができる時間が減ってしまうため、TA (Teaching Assistant)などの制度を作り、学生をサポートできるとよい。“わかる目標”“できる目標”はインプットとアウトプットの進捗度が学生・講師共に項目別に確認できるので非常によい。学修成果の見える化については、現在コロナで発表会や学園祭などが行えていないが普段と違った学生の姿も見られるのがよい。DX でいうと、出欠確認などの際、学生証を ID カードにしてタッチセンサーで管理できると非常に良いのではないかと。また学科を超えて教員がレクチャーしたり、他の学科の授業を選択できるようにすると他分野理解も進みよいのではないかと。」

【白井校長】

「TA、シラバスのことはよくわかりました。コロナ禍で発表会や学園祭ができなくて残念だが、次の春からは少し力を入れてやっていきたい。DXも学校側でもより効率化していかないといけない。学生版の未来会議もコロナがなければやっていきたいと思っている。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「大学の入学定員数厳格化によって、在籍者数が増えたという話があったが、文科省のほうでは、単年ごとの収容定員ではなく、複数年度の収容定員割合を基準とする議論がなされている。学生を取りすぎた大学が翌年それをカバーすればよいということができてしまう。テクニカルにおいては、建築やバイオといった大学と競合する分野もあるため、“対大学”を見据えた学生募集戦略を考えていく必要がある。就職率や就職先の開示もあったが、就職率が高ければディプロマポリシーの達成となるのか。真の達成とは、卒業生が就職した企業側の評価、卒業生の活躍で決まるのではないかと。非常に難易度は高いが、追跡調査などを行うなどして、こういった部分まで表現していただきたい。」

【白井校長】

「ありがとうございます。改めて、相談させてください。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「ガバナンス改革を控えている昨今、会計監査が厳しくなる。特に契約書等細かいところまでみられるので、準備をしていただきたい。リスキリングについては株式会社グロービスが非常に的を射たやり方をしているので、見習っていただきたい。また、学生募集や教務関係のアウトソーシング等ご準備をしていただきたい。中高生はSDGsを当たり前のように学んできているので、それがない企業は敬遠されるといわれている。学校選びの選択肢の1つにもなるのでご準備いただきたい。」

【白井校長】

「どれも勉強不足なところもあるが、SDGsに関しては、環境テクノロジー科などがある。学校全体として特段強くやっていないのに文言だけ入れるのもどうかと思い現在は入れていないが、高校生が非常に注目しているところではあると思う。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「数値をもっと学校広報に活かすことができないか。学校基本調査において専門学校の中途退学率の平均値が13.7～13.8%くらいの中、御校は5%以内というところで、非常に良い数字がでている。職業教育における学修意欲や就職意欲はその先の活躍にも繋がっていると思うので、就業後の活躍率も調べてはどうか。キャリアマップがこの春から、簡単にアンケート調査を行える機能を設けたのでぜひ活用して頂きたい。また、J-Startupのような経産省が行っているプロジェクトとの連携のようなことは模索できないか。地方から東京へ出て来られる学生が少なくなっている中、地方の学校よりもテクニカルカレッジだということに考えてもらえるような施策などがあれば、具体的などころを伺いたい。」

【白井校長】

「企業アンケートの件は、本当にありがたい。追跡調査だが、過去に行ったことがある。回答率が10%程度しかなく、その分析も非常に大変だった。2つ目の提案も勉強させていただきます。地方から東京へ来させるための施策はあまりない。オンラインでオープンキャンパスを開いたりしているが、なかなか難しい。その辺は、考えないといけない。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「DX をワクワクさせる、すごく素敵なキーワードだと思う。しかし、2年間で基礎的な所を学ばなければならない時間が長い中で、学生たちがこの勉強をやっているすごいワクワクすると思う時期っていつなんだろうと。学生がワクワクする取り組みを早い時期に体験させられるようなことができると学生たちの学びへの姿勢もかわるのではないか。」

【白井校長】

「学修の動機、そこの純度が上がると、人は動きますよね。いろいろ考えてみます。」

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「課題残率を減らしていくことは学生の満足度に比例しているのか。経験の異なる人たちが共に勉強をするという環境は、コロナ禍のこの時代において仲間づくりにも繋がり、長い年月でみてもチームになっていくかもしれない。学校に戻って学び直しをするなど、学修体験の積み重ねをしてほしい。」

【白井校長】

「あまりお伝えしていませんでしたが、年に2度学生アンケートをとり、その中で満足度を測っている。こういったデータも出してもよいかもしれない。」

【渡邊委員長】

「WI-FIの繋がりが不安定というのが、勉強の段階で生じるのは厳しい。調査改善を。また、IT は目的ではなく手段であるので、建築や自動車といった産業において IT の技術はどう使われているのか、といったことを教えていくとよいかと。」

【白井校長】

「はい、承知しました。」

7. 閉会の辞

【渡邊委員長】

「みなさん意見どうもありがとうございました。会議時間もなくなってまいりましたので、現在までの説明をもっと評価したいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい取り組みだと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」

【全委員】

全員一致で賛同

【渡邊委員長】

「ありがとうございます。昨年度の取り組み、今年度の取り組みも適切な活動であると評価したいと思います。これで会議の方は終了しますが、今後の活動についての改善努力についても計画したものがどのように進捗してきているのか、またその取り組みを含めこれからも公開をお願いしたいと思います。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。閉会しますが事務局の方から何かあればお願いします。」

【井坂副校長】

「議長どうもありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。本会議を持ちまして本日の学校関係者評価委員会の会議は終了となります。次回は11月25日金曜日の夕刻を予定しておりますのでぜひともご出席いただき、またご意見をいただければと思います。今後とも当校の教育にご理解ご協力をよろしくお願い致します。今日はありがとうございました。ではこれにて2022年度第一回学校関係者評価委員会を終了させていただきます。お忙しい中ご出席を賜り審議いただきましたことを厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。」

	【白井校長】 「本当に本気で言われた感じがして、知らないこともずいぶんご指摘いただきました。ありがとうございます。真剣なご意見を頂いたと思っておりますのでそれを活かしていきたいと思います。不勉強のところは今後勉強していきたいので、またご教示いただきたいと思います。ありがとうございました。」 以上
--	--

議事録署名人

_____ 印

_____ 印